

令和7年3月12日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立下目黒小学校
校長 守屋 大貴

令和6年度 目黒区立下目黒小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和6年 6月29日(土) 午前10時50分～午後12時00分
 - ・校内観察(学校公開日)
 - ・「令和6年度学校経営方針」説明
 - ・学校生活全般についての意見交換
- (2) 第2回実施日時 令和6年12月12日(木) 午前10時50分～午後12時00分
 - ・校内観察(学校公開日)
 - ・学校生活全般についての意見交換
- (3) 第3回実施日時 令和7年 1月24日(金) 午前10時50分～午後12時00分
 - ・今年度教育活動の振り返りと来年度教育活動に向けて(学校評価検討)
 - ・来年度学校評議員について

2 参加者

清勢 英治 様 久保 栄 様 平出 明 様 勝呂 喜代美 様

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎保護者・高学年児童・教職員では、すべての評価項目で肯定的評価が90%以上であり、学校全体への評価は概ね良好である。低学年児童については肯定的評価90%前後を保ってはいるが、すべての項目において微減で、特に「教職員の対応について」の肯定的評価が下がっている。 ●地域の方からは、「教職員が地域の行事等に顔を出してほしい」等の意見があった。	・低学年は専科・交換授業が少ないので、学級担任に加えて多くの教員が児童に対応する学年担任の意識を高め、複数の目でより細かく柔軟に連携して児童の見取りや対応を行う。 ・日々の気分の入力やi-checkなどのデータの分析・把握を確実にを行い、児童理解を深めて日々の指導に生かす。 ・教職員が少しでも参加しやすくなるよう、環境を整えていく。	・学年会のもち方、学年会の時間の確保など、今行っていることをさらに充実させて、情報を共有し指導にあたっていく。 ・左記の通り。 ・左記の通り。

<p>Ⅱ 教育目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標、時程、教育内容全体について 	<ul style="list-style-type: none"> ◎教育目標については、概ね肯定的な評価の割合が高かったものの、自由記述には「より具体的に」「達成のために何をするのか」等の意見があった。 ◎時程については、今年度やや複雑ではあったものの、内容を充実させつつカットできるところはカットしたことにより、児童からも教職員からも良い反応が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの通信や保護者会等で、取り組みや具体的な児童の姿を発信していく。 ・今年度の成果を生かし、時程を工夫して教育活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・40分授業のよさを、児童の声を通して発信していく。そこから、保護者の理解にも繋がると考えられる。 ・左記の通り。
<p>Ⅲ 心の教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について 	<ul style="list-style-type: none"> ◎道徳のローテーション授業の実施や特別活動の充実等により、保護者からの肯定的な評価は90%に達した。自由記述でも、縦割り班活動や出前授業等、道徳の授業だけではなく様々な教育活動において、道徳的実践力の向上に向けた取組をおこなっていることを評価する意見が複数あった。高学年児童で7.4ポイント減少しているが、90%に達している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教育活動で、思いやりや助け合い、人権教育等を基盤に取り組み、心の教育を充実させ、道徳的実践力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳のローテーション授業について賛成。それぞれの教員による多様な考え方に児童が触れることができるところがよい。
<p>Ⅳ 学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、しもめタイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習指導については児童の肯定的評価は微減であったが、四者とも90%以上の高い水準を維持している。 ●しもめタイムの取組については、自由記述でも肯定的な評価が多い中で、「何をしているのか分からない」「活動報告をきち 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のPDCAサイクルや学年会等をいかして、今後も授業力向上に努める。 ・しもめタイムの取組は、子どもを通じての伝達だけでなく、内容や成果について、より積極的に発信してい 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由記述から、学習用情報端末を使った学習についての意見が多数見られた。ICT機器活用のよさもあるが、反面、筆圧の弱さや鉛筆の正しい持ち方など出来なくなっていることも増え

<p>動、自然宿泊体験教室、 キャリア教育等の 充実について</p>	<p>んとしてほしい」等の意見もあった。</p> <p>◎キャリア教育については、保護者や地域、企業や大学とも連携して内容の充実に努めたことで、児童が自分自身のことや自分の今後のことについての考えを深めるきっかけを作ることができた。</p>	<p>く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部との連携や出前授業の活用、カリキュラムマネジメント等を行い、社会的・職業的自立の基盤となる能力や態度を育てる。 	<p>ている。何でも移行するのではなく、必要に応じて選択していくようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の人材を活用することで地域との連携を図り、なりたい職業を見付け意欲を高めたりすることができるのではないかな。
<p>V 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力向上、健康の促進に向けた取組について 	<p>◎体力向上・健康の促進については、ここ数年減少傾向にあった保護者の肯定的評価が13.7ポイント増加するなど、今年度の取り組み（「体力向上週間」を2回に増やし、児童の実態に合う内容とした）の成果が顕著に現れた。教職員の肯定的評価の割合も増加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一方で、特に高学年児童では10.9ポイント減少するなど、児童の肯定的評価は減少した。保護者・教職員が増加していることを踏まえると、児童の肯定的評価の減少は、体力向上週間等を通して児童の体力向上・健康促進に対する意識が高まったことにより、自分の課題が明確になった結果ではないかと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業や体力向上週間・ここカラダシートの取組、養護教諭の保健指導、外遊びの奨励等を一層充実させ、体力の向上、健康促進の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上の取組で、教員が主導するのではなく、児童に任せられることを任せ、発信していく。そうすることでさらに児童の意欲が増すのではないかな。 教員の評価が上がっているのがよい。

<p>Ⅵ 特別活動について</p> <p>・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて</p>	<p>◎特別活動については、高学年児童・低学年児童ともに微減しているが、約95%の肯定的評価を得るなど、学校行事や代表者会議などの取り組みを通して、充実した活動を行うことができた。</p> <p>●低学年保護者の自由記述に「低学年なのでわからない」の意見が散見された。代表者会議やクラブ活動がない分、低学年を含んだ活動を充実させ、低学年児童自身も活動に関わっているという意識をもてるようにする。</p>	<p>・学級会や委員会活動を充実させ、特別活動部が中心となって、児童による自発的・自治的な活動を充実させる。</p> <p>・低学年でも係活動や話し合い活動等の自発的・自治的な活動に取り組んでいることや、たてわり班活動等で異学年交流を行い成長していることを教師が価値づけ、児童に自覚を促したり、児童に発信したりする。</p>	<p>・学校教育を見直していくと、特別活動が削られることが多いが、実施可能な現実的なものに変えてけるとよい。</p> <p>・左記の通り。プラスバンドの活動がよい。</p>
<p>Ⅶ 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <p>・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて</p>	<p>◎生活規律の保護者の肯定的評価は8ポイント増加した。一方で、児童の肯定的評価は特に高学年児童で減少した。教職員の肯定的評価は97.4%と非常に高い水準を維持していることから、児童の肯定的評価の減少は規範意識が高まったことで、より客観的に自身の生活を振り返ることができるようになってきた結果ではないかと考えられる。</p>	<p>・下目スタンダードの共有やチーム下目黒の組織的指導を継続し、今後も全教員で素早く対応する。</p> <p>・生活規律の徹底やいじめ・不登校の防止に努める。</p>	<p>・児童のポイントの減少の背景には、児童の意識や考え方や意欲が影響している可能性がある。組織的に対応していくことを継続する。</p>
<p><防災教育・安全指導></p> <p>・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて</p>	<p>◎安全教育の教職員の肯定的評価は100%であった。今年度、避難訓練実施後すぐに反省をまとめ、次の避難訓練に生かすことを徹底した成果であると考えられる。</p>	<p>・教職員の避難訓練後の反省を継続するなどして、よりよい実践方法の工夫を継続する。</p>	<p>・左記の通り。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ●一方、保護者では微減、低学年児童・高学年児童ともに約5ポイント減少した。今年度から安全指導にJアラートやライフジャケットの扱いが加わるなど内容が多岐に渡り、まだ児童に浸透していないことが影響していると考えられる。 ●事件・事故等の防止は、低学年児童で肯定的評価が79.6%と、全項目の中で最も低かった。質問は「安全教室に真剣に参加しているか」を問うものであったため、低学年の安全教室の実施からかなり期間が空いていた学年や未実施の学年があったことが低い評価につながっていると考えられる。 <p>◎情報モラルについては、しもめスタンダードを毎年見直すとともに、情報モラル指導計画に沿って充実した指導を行うことができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育や安全指導の様子を保護者に発信したり、取組の成果を教師が価値づけて児童に自覚させたりして、指導の充実を図る。 ・事件・事故に対する指導は、毎月の安全指導や安全教室に加え、日々の教育活動で意識の向上や対応の仕方を一層充実させる。 ・情報モラルやICT機器の利用について、今後も家庭と連携して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の通り。 ・安全教室の時期とアンケートの実施時期が影響していることも考えられるが、分析をしっかり行い、対応することが大切である。また、アンケートの質問に教員が細かく説明をして、児童が質問内容の理解ができれば、結果にも影響があるのではないか。 ・しっかりと情報モラル教育を行う、児童の将来的なことを考えて教育すると同時に、保護者にも啓発を行う。親子で学ぶ機会を作り、意識を変えていく必要がある。 ・保護者が管理をするために、事例を提示して、家族にも危機感をもたせる等の工夫をしていく。
--	---	--	---

<p><幼・保・小・中連携 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<p>◎小・中連携については、意識して情報発信を増やしたことにより、保護者の肯定的評価が増加した。</p> <p>●一方で、教職員については7.9ポイント減少した。内容を充実させ教職員の必要感や取組の成果を高める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中連携の取組は保護者や外部に伝わりにくいので、積極的に発信する。 ・次年度はキャリア教育の一環として教育課程の重要事項に位置付けられているとともに、研究開発学校の日として情報交換をすることも定められているので、充実した時間となるよう、これまでの実施方法に囚われない運営方式を提案していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の通り。 ・左記の通り。
<p>Ⅷ 情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信の充実について 	<p>◎ホームページだけではなく、校内の連絡ツールを活用して保護者に向けた校外学習時の情報発信を充実させたことにより、保護者の情報発信についての肯定的評価は5.9ポイント増加した。自由記述でもこのことについての肯定的な意見があった。</p> <p>●ホームページの仕様が古い、携帯では見づらい、等の意見があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報発信は、よりタイムリーに、クローズドでできる校内連携ツールを、今後も活用していく。 ・ホームページは、広く一般の方がみられることを鑑み、更新に努める。仕様が今年度末から区全体で刷新されるので、一層の活用を学校便り等で呼び掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の通り。 ・地域の掲示板を活用するのもよい。

<p>IX 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 	<p>◎教職員の肯定的評価の割合は94%と高い水準を維持している。今年度は特に、若手が主体的にOJTを進め、研鑽を積むことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ OJTの充実を継続する。さらに、校内の研修だけでなく、外部の研修のさらなる活用も促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続してほしい。
<p>X 教員の働き方改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について 	<p>●教職員の肯定的評価が26.3ポイント減少し、唯一60%台となった。今後働き方改革をどのように進めていくかは、本校の大きな課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事の精選を行う。その際、単に校務を減らすということではなく、教育的意義を吟味して削減する事項、より充実させる事項、効率を上げていくべき事項を全教職員で検討し、共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事や校務分掌を明確化する。 ・ 内容の効率化を図り、一定の個人に負担のかからないような分担の明確化していく。 ・ 一方で、働き方改革に関する考え方は個人の捉え方によるので、難しさがある。 ・ 行事や校務の精選においては、何でもなくすのではなく、合わせるなどして改善していくことも大切である。教職員の意識改革も必要ではないか。
<p>XI 服務事故の防止について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サービス事故防止に向けた取組などについて 	<p>◎教職員の肯定的評価は97.4%。校内研修を計画的に、確実に実施するとともに、学年団を中心に風通しのよい職場づくりに努めた成果と言える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービス事故防止を徹底し、児童・保護者・地域・関係団体の信頼にこたえる魅力ある学校づくりに今後も努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続してほしい。